望ましい集団活動の活性化と自主的・実践的な態度を育てる特別活動の在り方
～小規模校における特別活動の実践を通して～

日立市立東小沢小学校

1　はじめに

本校は、全校児童 10 名の小規模校である。児童同士は互いをよく知っており、仲良く活動し、年上の児童が年下の児童を自然に面倒みる関係ができている。しかし、限られた人数・メンバーのため、例年通りの行事の実践や遊びの内容も限定されがちだった。そこで、自分たちで企画・準備することで楽しさや創造、創意工夫する喜びを味わわせ、自主的・実践的な態度を育てたいと考え、取り組みを行った。また、坂本小学校との統合を控え円滑な接続のために、より良い人間関係を構築しようとする意欲やスキルを身に付けさせたいと考え、様々な活動を取り入れた。

2　資料

(1)　全校 SST の実施

今年度から朝の活動に SST を取り入れた。坂本小学校との統合を見据え、児童がよりよい生活を送るために大人数でのトラブルや困った時の対処法について、全児童で考え、集団生活に必要なスキルを学んだ。

(2)　なかよしタイム

毎週水曜日の中休みを「なかよしタイム」と位置づけ、高学年がリーダーシップをとり、みんなの意見をまとめ、遊ぶ内容を決定しながら、全校児童で遊んだ。

(3)　東小沢っ子カップの開催

計画委員会が中心となり、児童の創意工夫により企画された、カルタ大会や全校かくれんぼ、縄跳び集会など、児童主体の活動を行った。

(4)　思いやり集会

今年度「思いやり集会」を新たに企画し、全児童で思いやりや、思いの伝え方について考える場を設定した。学校でよくある、友達とトラブルになりそうな場面を想定し、相手にどんな言葉かけをしたら良いか考えることで、実践的な活動につなげ効果が見られた。

全校 SST

なかよしタイム

東小沢っ子カップ

思いやり集会

3　成果と課題

○東小沢っ子カップの内容を見直し、児童主体で内容を決めて活動できるようにすることで、児童個々に主体性が身に付き、児童が自ら考えて行動できるようになった。

○なかよしタイムを設定する前は、一人で遊ぶ児童が多かったが、集団で遊ぶ機会を増やすことで、バスケットボールや鬼ごっこなど、集団で遊べる児童が多くなった。集団遊びの中で友達同士のもめ事もあるが、その都度、適切に支援することで、コミュニケーション能力を高めることができた。また、高学年がリーダーシップを発揮し、全体をまとめるなど、みんなで楽しく遊ぶことができるようになった。

○SST の活動や思いやり集会では、自分事として捉えられる内容にすることで、相手の気持ちを考えた行動ができるようになり、日常でもそのような場面が見られるようになった。

●進んで動くことができる児童が多い一方で、自分勝手な行動が見られる場合もある。自分勝手と自主性の違いについて、考えさせる場面を設定していきたい。